

## パンデミックとルネサンス

荒井 正行

世界を中心に感染症（COVID-19:新型コロナウイルス）が蔓延しています。私が毎日書き留めている日誌によると、2020年2月26日（水）ごろから“新型コロナウイルス感染の危険性”という文章が現れてきます。ちょうどそのころ、中国電力との共同研究成果報告会のため広島にある本店に出張していました。出張先で、「コロナ感染大丈夫ですかね？」などと呑気な会話が繰り広げられていたのを思い出します。飲み会もありました。その後も普通に出張がありました。学会での運営会議も出席していました。その後、1カ月足らずで我が国の感染者数は6000人、死者90名にも達しました。ここ二週間の間で感染者数が急増しました。世界感染者数が150万人、死者9万人。当分、感染者数の増加は留まるどころを知らないでしょう。とうとう、緊急事態宣言が2020年4月7日（18:00ごろ）に発令され、自宅勤務を余儀なくされました。世界中の多くの人達も自宅に監禁（？）状態にあるという。本当に最悪の状態だと思います。この結果、このような現状に悲観し、将来が無い、と気を落としている人達も多いと聞きます。コロナ鬱。感染症はこのまま世界を崩壊させるのでしょうか？ここでは感染症の歴史を俯瞰することで、新型コロナウイルスから世界が解放された後の未来について考えてみたいと思います。

感染症の代表例としてペスト（黒死病）が挙げられます。古くは古代ギリシャ、ポリス アテナイでペストが流行したことが記録されているようです。その後、ペストはヨーロッパを中心に繰り返し、繰り返し発生しました。ペスト流行と人口の集中、そして衛生状態とは相関があることが人々によって理解されました。その後のヨーロッパの都市構造は大きく変化したそうです。公衆衛生学は、当時開発された学問のなかで最も優れたものといえます。しかし、14世紀になるとアジアでペストが発生。流行したペストはシルクロードを経て再びヨーロッパに流入しました。その後、ペストがヨーロッパで大流行し、いわゆるパンデミックが発生しました。当時、世界で1億人が死亡したと記録されています。場所によっては、村が消滅したとも伝えられています。このパンデミックは、現在我々が経験している新型コロナウイルスの経過と酷似しているように見えます。ということは、このような黒い歴史を通じて、新型コロナウイルス収束後に社会がどのような影響を受けるのか、に対する答えが見つけられるような気がしますね。

14世紀にペストが大流行した時代、この当ても人々は建物の中に引きこもる、

都市郊外に移住したそうです。フィレンツェでは修道士が教会に引き籠っていました。現代では、テレビやインターネットがありますが、当時はそのようなものはありません。当時は、皆でお話したり、絵を描いたり、音楽を楽しんだりして時間をやり過ごしていたそうです。これらの引き籠りの期間に、人々はすばらしい絵画や音楽を創作したのです。いわゆる世界史で学ぶルネサンスの開花！世界史では、なんらかのモーメントを契機に、人類の精神が刺激され、ルネッサンスがヨーロッパで開花した、とその起源が曖昧に表現されているものが多いです。しかし、立命館アジア太平洋大学学長の出口先生（この先生については、昨年度の固体力学をお読みください）によると、そのモーメントはペスト流行だと断言しています。そう。感染症によるパンデミックが発生している間に人類はじっとしてなかった。むしろ、人類は内面に刺激を求め、つまり創造的な仕事をその内面に向けて進めていたのです。この点は私たちに重要な示唆を与えます。

次の例は有名なアイザックニュートン。彼は、微分積分を確立しました。そして、力学を完成させました。ほとんどすべてを一人の天才が完成させてしまった。現代の数理物理学の考え方、すなわち自然がなぜあのように変化するのか、という哲学的な追及をせず、観察された結果に基づいて数式をたて、これを解けばよい、というアプローチをはじめて思いついた人です。このような素晴らしい革新的なアイデアがいつ生まれたのでしょうか？それはペスト流行中に郊外にある田舎に引きこもった約二年間なのです。新型コロナウイルスから解放されて、葛飾キャンパスの図書館が開館したら、是非、ニュートンの伝記を手にとってください。ニュートンのペスト流行時における引き籠り期間がなければ、物理の革新はさらに百年を待たなければならなかったという人もいるほどです。

さて、皆さんは自宅でどのように毎日過ごしていますか？ほとんど外出することが許されず、拘束された日々が過ぎていきます。しかし、私にとっては久しぶりに集中した時間がとれると思って、実は喜んでいるのです（この表現は少し不謹慎ですが、お許してください）。朝から晩まで、専門書や一般書を読み、これまでに山積していた理論式を再び引っ張り出して変形し、思想試錐を繰り返す日々。なんと幸せな、充実した日々でしょう。随分と原稿も書いています。新しい本を執筆するための着想も得ました。

世界中で多くの研究者が自由な時間と拘束された日々を過ごしていると思います。これらの研究者は、今、すべての時間を自分のために費やして創造的な仕事を進めていると思います。そして、おそらく来年にはこれらの多くの成果が論文となって溢れだし、新しいアイデアが世の中を蔓延し、それらが急速に私たちの生活を一変してくれるのではないかとワクワクしています。

日本はさらに幸運な立場にあるといえます。そうです。延期された東京オリンピックです。世界中の疲れ切った人たちを、このオリンピックが励まし、未来に希望を与えてくれることでしょう。パンデミック終了後のルネサンスは日本発です！あとひと息です。皆でこの難局を楽しく乗り越えていきましょう。私たちひとりひとりにルネサンスを开花させる可能性があるのです。